１．中部地方整備局港湾空港関係組織の紹介

２．みなとの役割と中部地域の特徴

３．中部地方整備局で担当している仕事

４．仕事の流れ

（参考）最近の動き

（参考）2024年度採用について

物流・産業　国際競争力の強化（四日市港）

国土交通省

コンテナ向けの岸壁整備（四日市港）

　コンテナ貨物の増加とコンテナ船の大型化に対応するとともに、物流の効率化を図るため、水深14mの耐震強化岸壁を新たに整備しています。

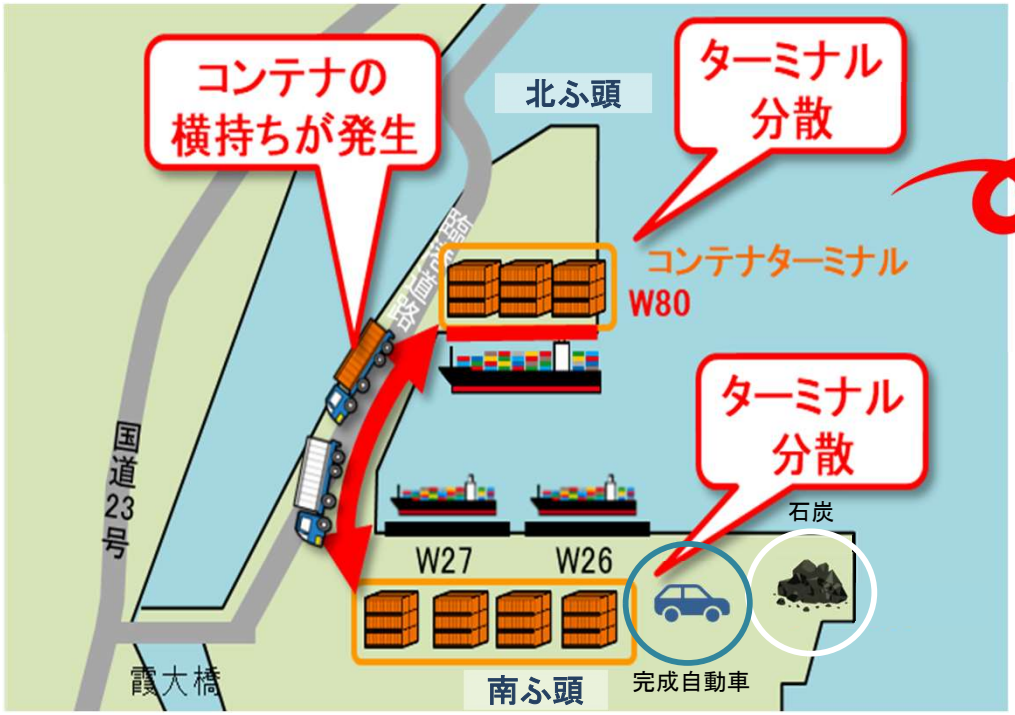
【完成イメージ】

物流・産業　国際競争力の強化（四日市港）

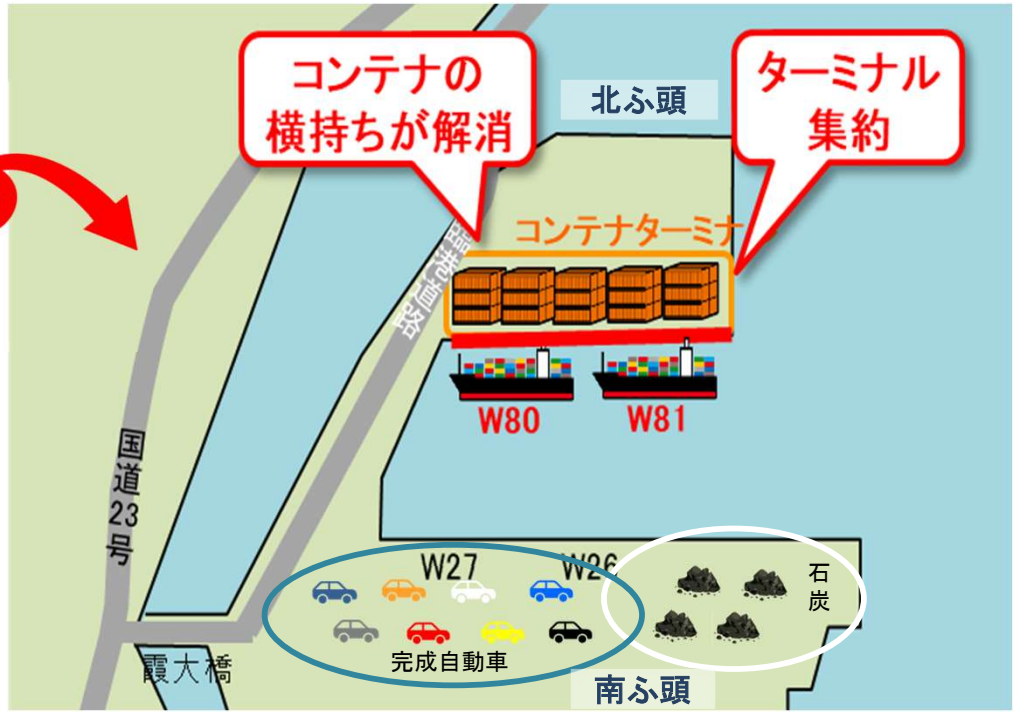
国土交通省

※イメージ

現在の利用状況



整備完了後の利用



現在はターミナルが分散しており、ふ頭間でコンテナの移動（横持ち）が必要…

◎ 北ふ頭にコンテナ機能を集約することにより、荷役機械の稼働率の向上やコンテナの横持ちが解消され、効率的な荷役が可能となる

◎ 南ふ頭では、将来の荷物需要の増加にも対応可能となる

物流・産業　国際競争力の強化（臨港道路の整備）

国土交通省

幹線臨港道路の整備（四日市港霞4号幹線）

四日市港では霞ヶ浦ふ頭と伊勢湾岸道川越ＩＣを直結する幹線臨港道路を整備し、港湾との荷物の運搬効率上げる工事を行いました。

整備後

橋脚に臨港道路の上部工を架設する様子

物流・産業　国際競争力の強化（臨港道路の整備）

国土交通省

四日市港では、**臨港道路の整備により、最寄りの高速道路ICから霞ケ浦地区までの所要時間が短縮**し物流が円滑化。並行する国道23号への港湾関係交通量の流入も減り、渋滞緩和に寄与しています。また、霞ケ浦地区と内陸部を繋ぐ代替輸送経路の確保されたことで、防災機能が強化され、物流施設が新たに立地しました。

整備前の霞大橋周辺

整備後の霞大橋

至 名古屋市

みえ川越IC

国道23号線

四日市・いなば
ポートライン

四日市・いなばポートライン

霞北埠頭物流センター

霞ケ浦北ふ頭
コンテナターミナル

霞ケ浦地区

霞大橋

至 津市

物流・産業　国際競争力の強化（道路整備との連携）

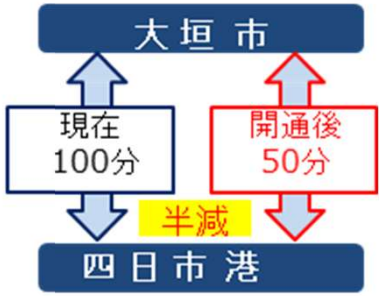
国土交通省

中部地方整備局（道路部）が整備を進める東海環状自動車道は、令和８年度に全線開通予定。開通後は、四日市港と背後圏域とのアクセス性向上による物流の効率化が見込まれます。

■東海環状自動車道の全線開通による物流効率化

東海環状整備前後の所要時間

四日市港と背後圏域とのアクセス向上により貨物量のさらなる増加が見込まれる



※1 用地取得等が順調な場合
※2 速度低下箇所に付加車線（計6km）設置
（R4から順次開通見込み、R6全線開通見込み）

物流・産業　国際競争力の強化（名古屋港）

国土交通省

大水深耐震強化岸壁の整備（名古屋港飛島ふ頭）

東南アジア向け貨物量の増加とコンテナ船の大型化に対応するため、既存の水深12m岸壁を水深15mの耐震強化岸壁に機能強化しています。

飛島ふ頭東側R1岸壁改良工事の様子

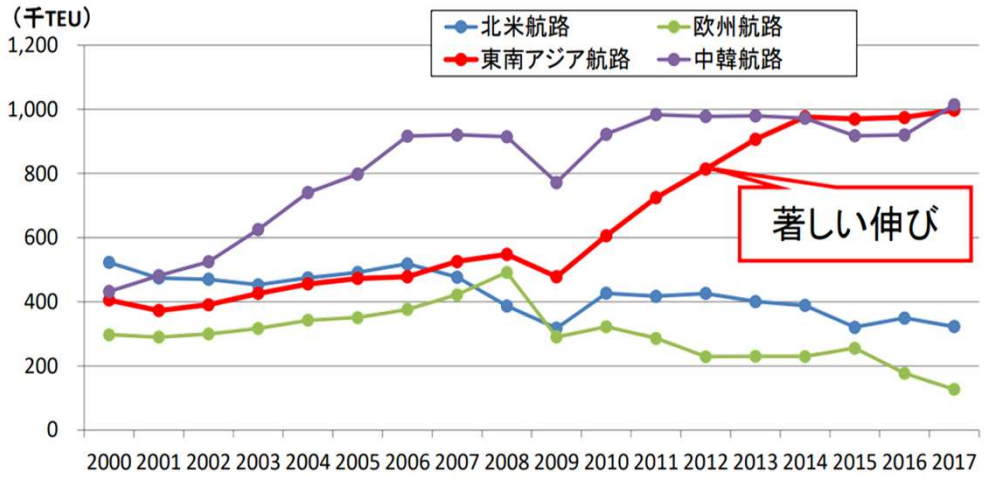
※現在は完成し、令和4年10月より供用中

物流・産業　国際競争力の強化（名古屋港）

国土交通省

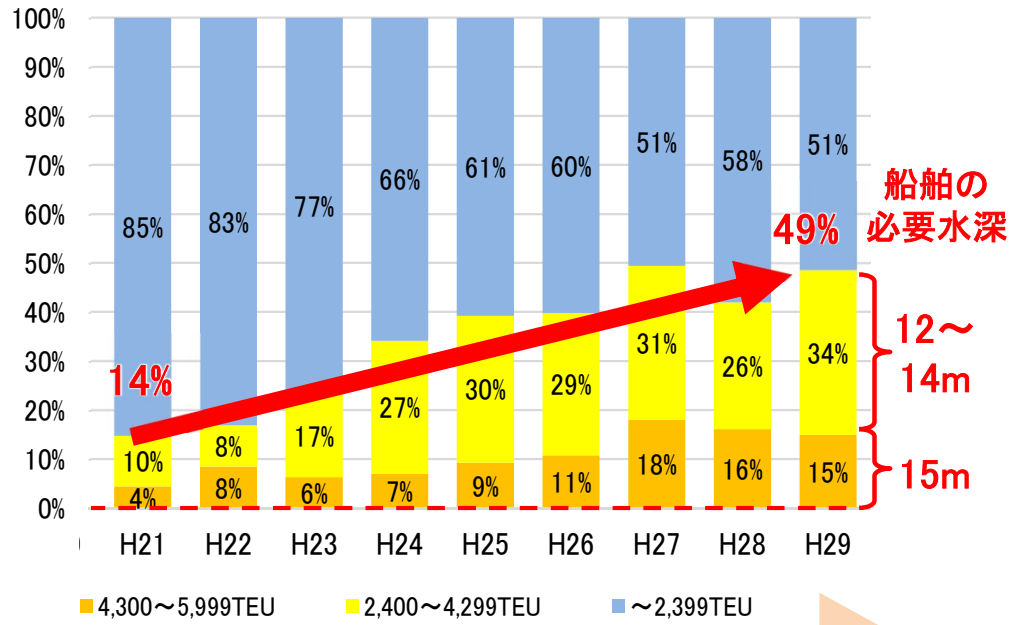
○ 名古屋港に寄港するコンテナ船（東南アジア航路）は年々大型化
○ 既存の水深12m岸壁(R1、R2)は、供用開始から40年以上が経過し大規模修繕が必要な状況

【名古屋港におけるコンテナ貨物量の増加】



近年、自動車部品などを中心に、東南アジア向けのコンテナ貨物量が飛躍的に増加している

【名古屋港におけるコンテナ船(東南アジア航路)の大型化】



既存の岸壁水深12mを超える大型コンテナ船が増加

岸壁の老朽化

R1・R2岸壁桟橋上部工の劣化状況

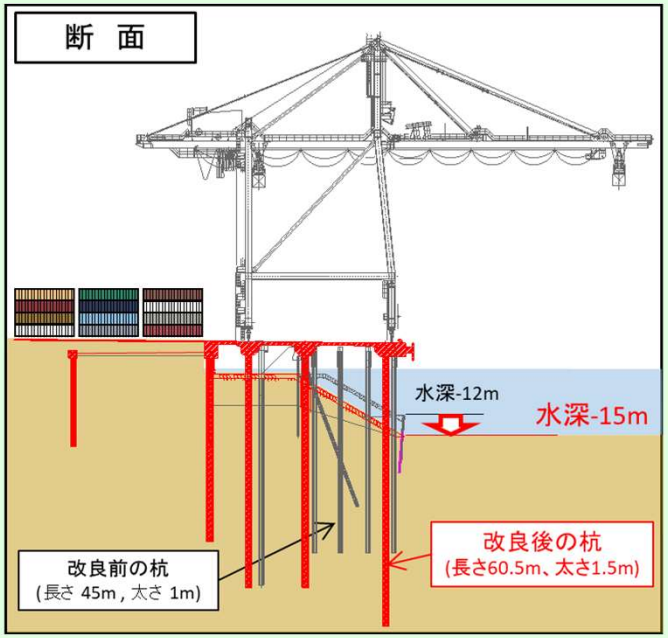
物流・産業　国際競争力の強化（名古屋港）

国土交通省

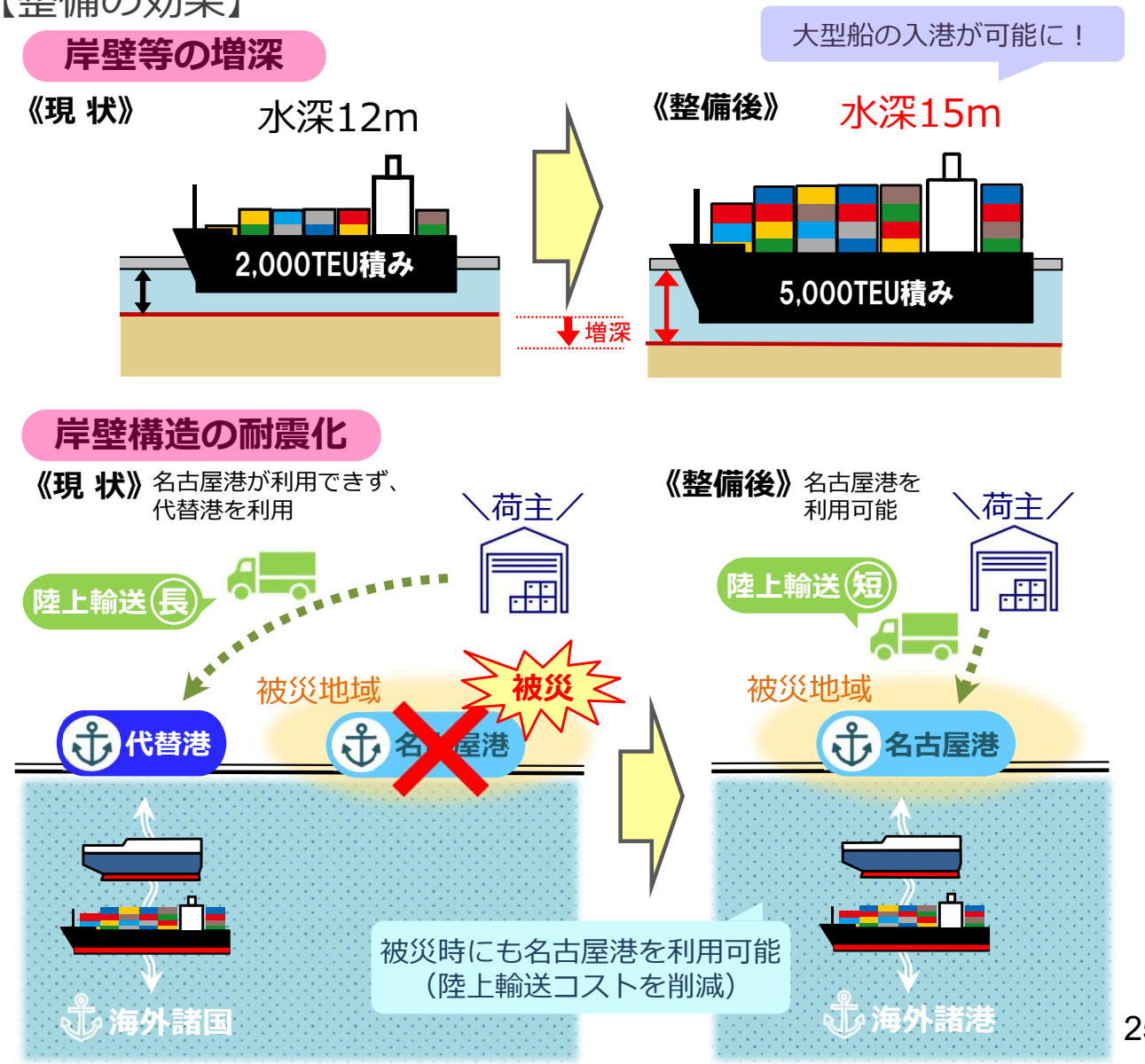
○ 岸壁の増深改良を行うことで、大型船の受け入れに対応
○ 岸壁を耐震構造化することで、被災時にも荷役が可能

【改良工事の概要】

・事業期間　：平成28年度～令和11年度
・事 業 費　：678億円



【整備の効果】



安全・安心　防波堤の粘り強い化

国土交通省

粘り強い防波堤の整備（清水港外港防波堤）

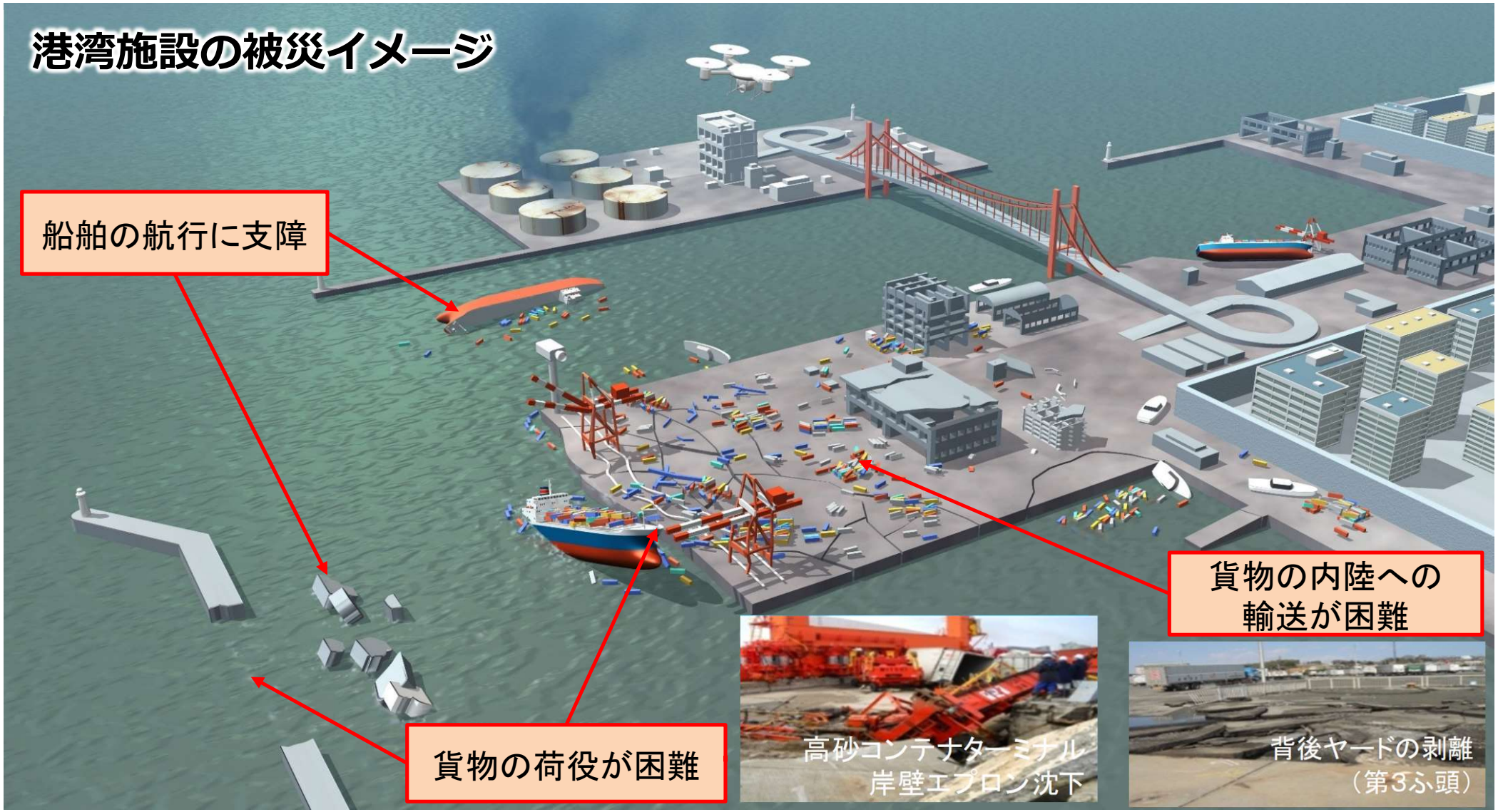
　東日本大震災による津波により、東北地方が甚大な被害を受けた一方で、防波堤の存在が被害軽減につながった事例も多数ありました。このため、同じような津波が来ても簡単には崩れない防波堤の粘り強い化構造への工事を行っています。

しょうは
消波ブロックを据え付けている様子

安全・安心　防波堤の粘り強い化

港湾の施設が被災すると、海上から安全に物資輸送することが困難になります。

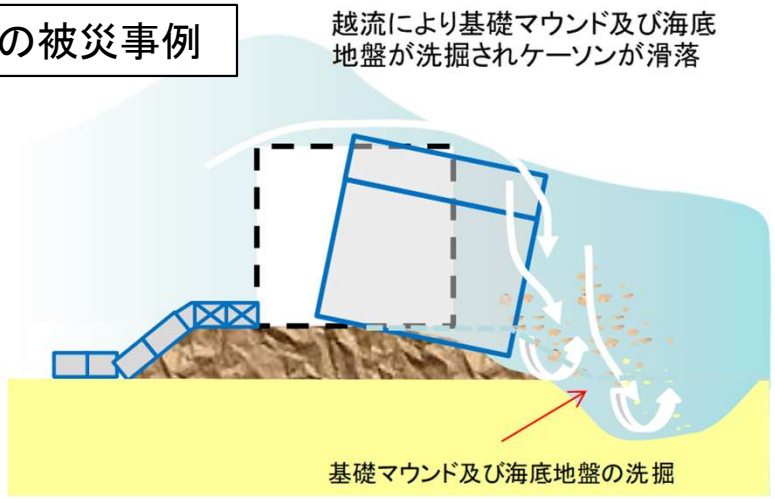
→ みなとの近隣や背後に立地する企業の生産活動が停滞するため、
人々の生活が脅かされます



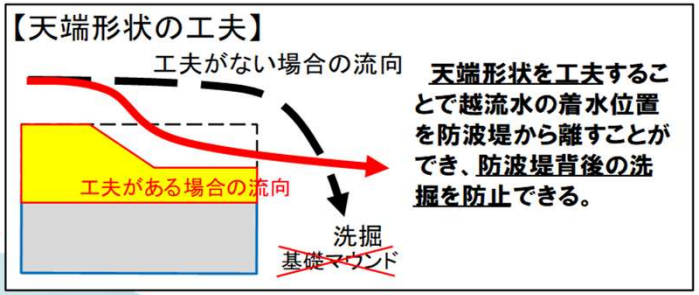
安全・安心　防波堤の粘り強い化

防波堤背後（港内側）に被覆ブロックを設置したり、上部工の形状を工夫してかさ上げを行ったりすることで、**粘り強い構造**に改良しています。

東日本大震災での被災事例



対策（粘り強い構造）



防波堤の模型実験動画
（名古屋港湾空港技術調査事務所）

安全・安心　海岸堤防の整備

国土交通省

住民の命とくらしを守る海岸堤防の整備（津松阪港海岸）

　建設から約半世紀が経過した津松阪港の海岸堤防では、老朽化に加え、地盤の沈下、海浜の浸食、液状化に対応するため、平成4年度より改良整備を進めてきました。（全延長11.4km）

　海岸の背後に地域住民の生活空間が近接した区間では地盤の変位を抑えた施工を行い、賑わいエリアとなっている地区では親水性・利便性を考慮した整備を進めてきました。

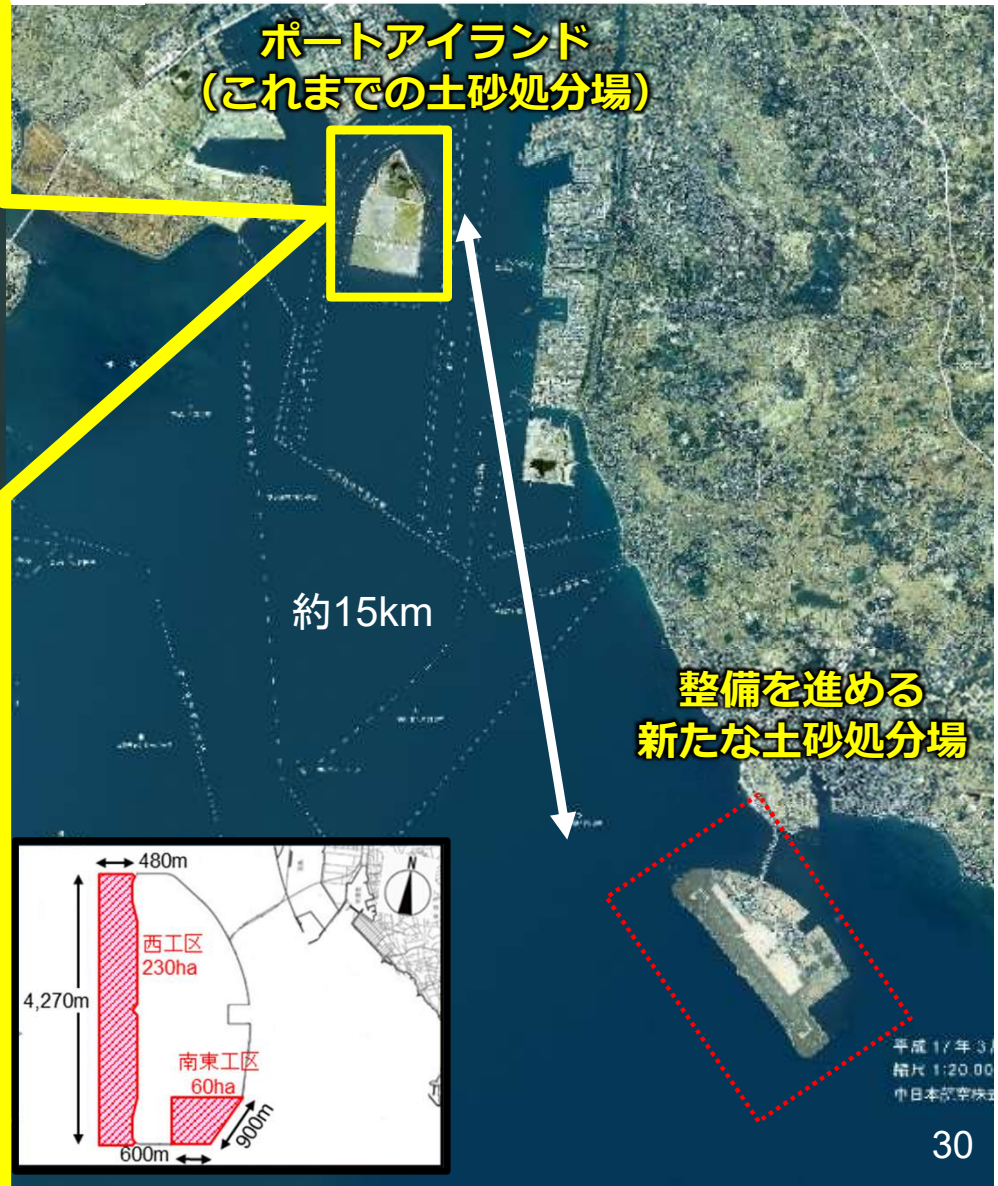
物流・産業　港湾整備により生じる浚渫土砂の処分

国土交通省

土砂処分場の管理・整備（名古屋港）

　名古屋港の港湾機能維持・強化に伴い発生する浚渫土砂を受け入れるための土砂処分場の管理を行っています。また、浚渫土砂を今後も継続して受け入れるため、新たな土砂処分場の整備も実施しています。

浚渫…水深を深くするために海底の土砂を取り除くこと



中部地整で活躍する船舶①「清龍丸（せいりゅうまる）」

国土交通省

効率的な航路・泊地の整備（浚渫）（名古屋港湾事務所所属「清龍丸（せいりゅうまる）」）

　名古屋港事務所は、航路を閉鎖することなく、航路や泊地の浚渫を走りながら行える浚渫兼油回収船「清龍丸」を保有し、24時間体制で効率的に整備を進めています。
また、災害時には被災地に出向き、支援物資の運搬や船内を開放した入浴支援など、被災住民支援等も行っています。

中部地整で活躍する船舶①「清龍丸（せいりゅうまる）」

国土交通省

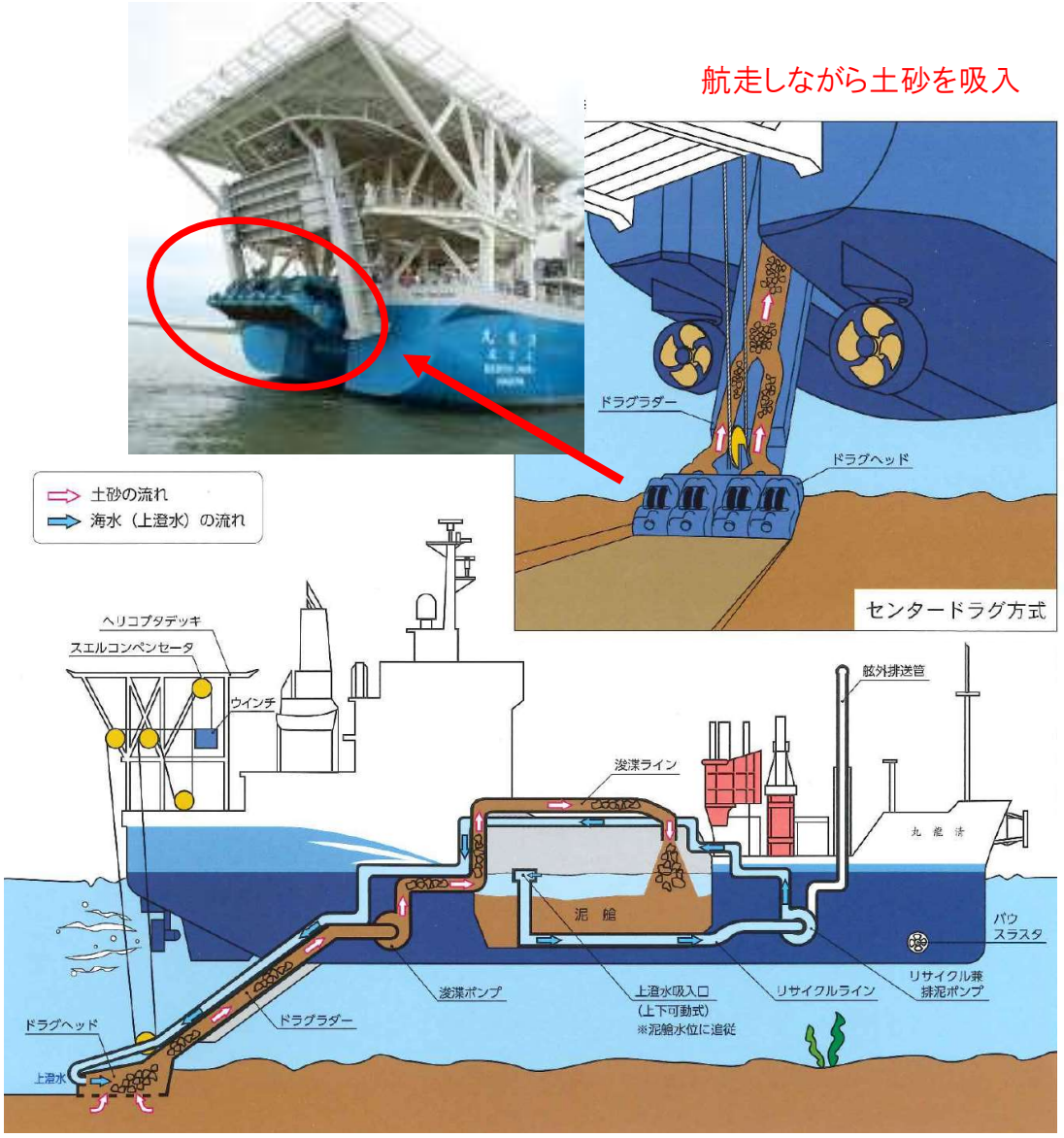
「清龍丸」では、航行しながら作業できるため、ほかの船舶の航行を妨げることなく浚渫が可能です。

○一般的な浚渫（例：グラブ浚渫）

・浚渫箇所（航路など）に一定時間停泊して浚渫作業を実施

・3交代制、24時間浚渫作業

●清龍丸による浚渫

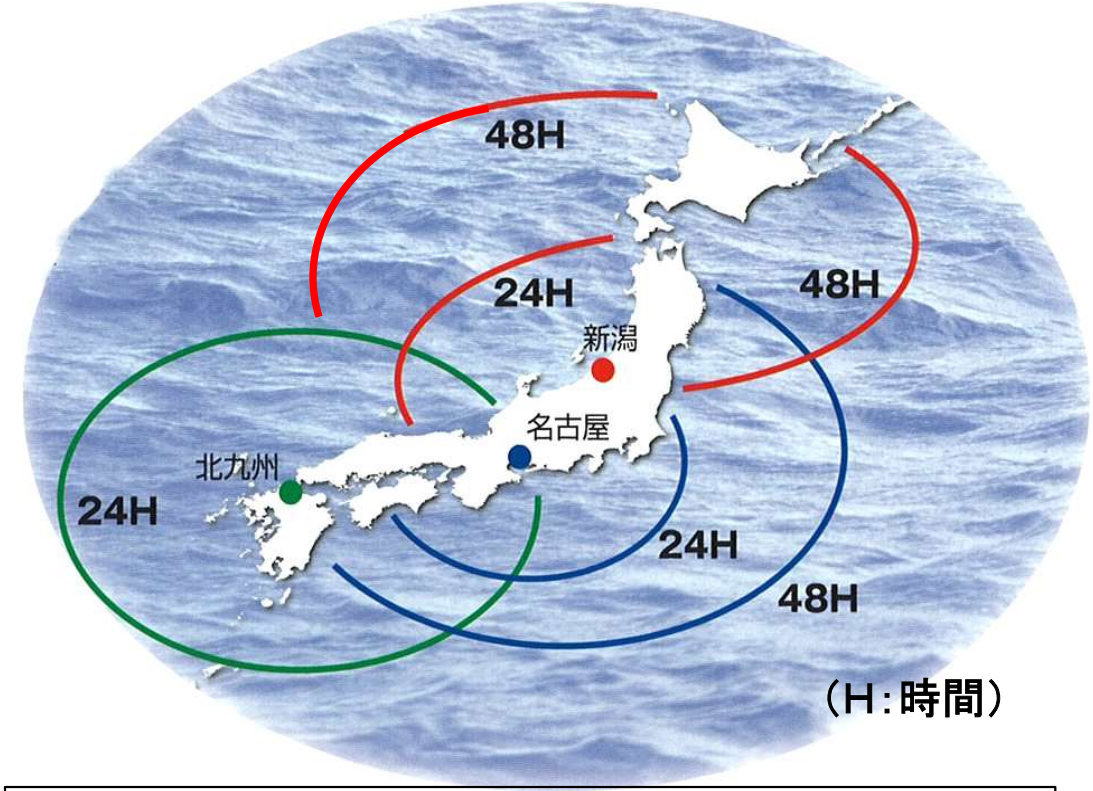


中部地整で活躍する船舶①「清龍丸（せいりゅうまる）」

国土交通省

「清龍丸（せいりゅうまる）」のほか、全国に配備されている「白山（はくさん）」、「海翔丸（かいしょうまる）」の３隻で、油流出時に概ね48時間以内で現場に到着できる体制を築いています。

◆全国をカバーする大型浚渫兼油回収船3隻配備体制



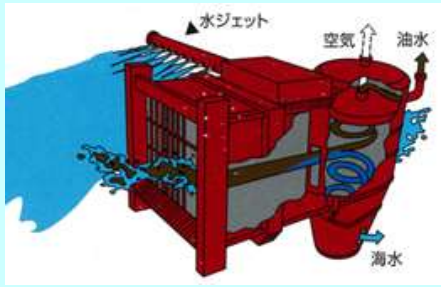
白　山（新潟港）【2002年 5月竣工】
清龍丸（名古屋港）【2005年 3月竣工】
海翔丸（北九州港）【2000年11月竣工】

油回収

時間の経過とともに変化する流出油の性状に対応

低粘度油回収状況

高粘度油回収状況



◆清龍丸の油回収実績

発生月日	1978.1.18	1990.1.26	1997.1.2	1997.4.3	1997.7.2
発生場所	三重県　四日市沖	京都府　経ヶ岬沖	島根県　隠岐島沖	長崎県　対馬沖	東京湾　本牧
流出量	１０５ＫＬ	６５０ＫＬ	６２４０ＫＬ	１８６ＫＬ	１５５０ＫＬ
事故船名	降洋丸	マリタイムガーデニア号	ナホトカ号	オーソン号	ダイヤモンドグレース号
出動日数	５日間	２６日間	５４日間	１３日間	５日間
油水回収量	５ＫＬ	２０ＫＬ	９３８ＫＬ	８ＫＬ	２２８ＫＬ

清龍丸（せいりゅうまる）による被災地支援

国土交通省

○ 平成30年7月豪雨では、名古屋港湾事務所所属の大型浚渫兼油回収船「清龍丸」は、7月9日（月）に名古屋港を出港し、10日（火）に堺泉北港で水や食料等の支援物資を積み込んだ後、11日（水）に広島県 呉港阿賀マリノポリス地区に到着し、12（木）に支援物資を呉市に引き渡した。
○ 12日より16日、18日・19日の間、被災地の皆さんへの入浴・洗濯支援を実施
○ 累積の入浴者数：**１，１９９人（男性４８９名、女性７１０名）**

支援状況

緊急物資の積み込み
（10日　堺泉北港）

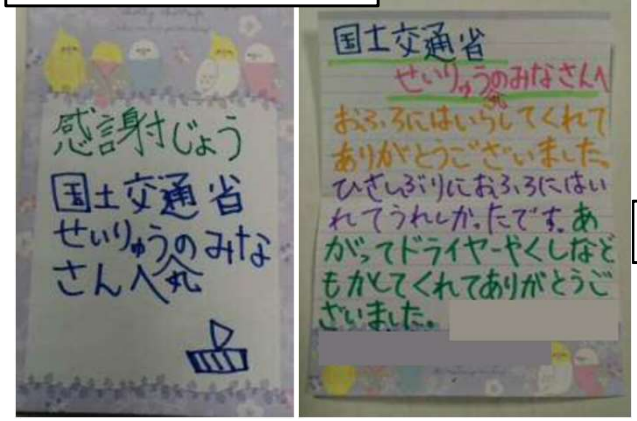
緊急物資の荷下ろし
（12日　呉港）

利用者の声

・久しぶりの入浴でとても気持ちよかったです！洗濯ができないので、タオルが使えてとても助かりました。いたれりつくせりで本当にありがとうございました！！
・洗濯支援が全てそろっていたので家みたいに使わせて頂きました。
・清潔で安心して入浴できる環境が大型船の中にあり、本当にゆっくり体を洗えました。さっぱり気持ちよかったです。大満足です。感謝しています。
・忙しい中ありがとうございました。イヤな生活もここに来て少しずつ頑張ろうと思いました。本当にありがとうございました。
・また、呉に来て欲しいです。中を見学したい。親切に笑顔で接して頂き、ありがとうございました。

利用者の様子

利用者からの感謝状



浴槽

脱衣所

利用者がくつろぐ様子

中部地整で活躍する船舶②「白龍（はくりゅう）」

国土交通省

海のゴミの回収（名古屋港湾事務所所属「白龍（はくりゅう）」）

　名古屋港事務所は、伊勢湾全域を対象に浮遊する流木等を回収する環境整備船「白龍」も保有しています。名古屋港はさまざまな河川と接続しており、大雨や台風後などは、河川からの流木等の流出も多く、船舶の航行に影響を及ぼす可能性が大きいため、「潮目予測システム」を用いた早急なゴミ回収を行っています。

流木を船内に回収

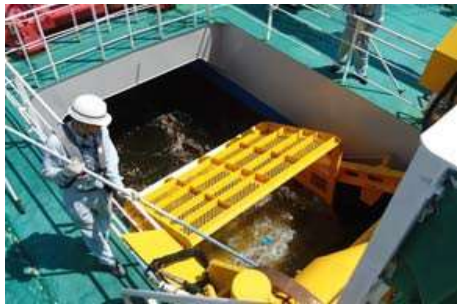
中部地整で活躍する船舶② 「白龍（はくりゅう）」

国土交通省

「白龍」には、ゴミ回収機能のほか、油回収機能、環境モニタリング機能が備えられています。

1. ゴミ回収機能

浮遊するゴミは双胴間部の回収かご（スキッパー方式）で回収を行い、流木などの長尺物は両舷に設置されているグラブ式で回収し、コンテナへ格納する。



スキッパー方式（6m³）

グラブ式（0.99t吊）

コンテナ（容量：25m³）

2. 油回収機能

油回収器を水面に浮かせ、ポンプで油水を吸引し油と水に分離させ、濃縮された油をタンクに回収。

油回収器

油回収訓練状況

3. 環境モニタリング機能

伊勢湾の環境メカニズム解明のために、水質及び底質の定期的な観測を実施。

水質測定器

採泥器

大型作業船を駆使した港湾工事！～中部地整（港湾空港部）の魅力～

国土交通省